

学習だより

第10号
令和7年7月7日発行
宇都宮市立陽北中学校
学習指導部

「学習だより」は、本校のホームページからご覧になれます。
携帯電話・スマートフォンから、QRコードを読み取ってご覧ください。



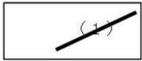
問題集はこう使えば良かったんだ...

問題集はこう使えば良かったんだ...。自分も中学校時代にこの方法を知っていたら...

向山洋一むこうやまやういちさんが書いた『塾だけでは実力がつかない向山式中学生の家庭学習法』という本の中に、問題集の効果的な使い方が書かれていた。それはどんなものかを今から紹介したい。

まず、そんなに厚くない問題集を選ぶ。(学校で購入こうにゆうした問題集でOKです。定期テスト対策ならむしろその方がよいでしょう)

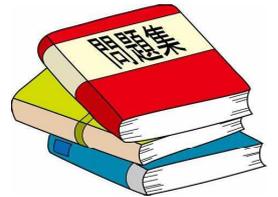
そして、問題を解いていくのだが、答合わせをして、合っていれば下の図のように斜線しやせんで問題番号を消す。



間違っていれば、下の図のようにチェックを入れる。



これで終わりではない。向山さんは次のように言う。



問題集を一生懸命やって、勉強をしたつもりにはなるが、実のところ「できた」「できなかった」の区分けをしたにすぎない。

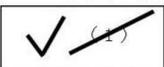
極端きよくたんに言えば、ここまでのことなら、問題集をとかなくても「できる」ものはできたし「できない」ものはできなかったのである。

問題はここからなのだ。(※1)

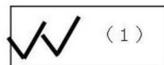
向山さんは、同じ問題集を繰り返すことを強調する。「できなかった」問題を「できる」ようにすることが勉強だというのだ。

ただし、2回目は前回間違えた問題、つまりチェックを入れた問題だけをする。

2回目に正解できたら、問題番号を斜線で消す。2回目でも正解した問題は下の図のようになるはずだ。



2回目も間違えた問題は下の図のようになる。



2回目が終わったら、3回目をする。当然、2回とも間違えた問題だけをすればよい。3回目も間違えたら次のようになる。



そして、4回目に取りかかる。

難関高等学校をめざしていた向山さんは、受験勉強のために9教科、9冊の問題集を準備したそうだ。そして、9冊の問題集の1回目が終わるまでに2ヶ月ちょっとかかったそうだ。しかし、2回目は3週間で終わったそうだ。3回目は1週間で済み、4回目はなんと3日で終わったそうだ。こういう方法で、問題集をマスターした向山さんは次のように述べる。

この問題集に出ていることなら、どこが出てもすべてできるという自信があった。この自信は大きかった。

それ以後、どんな問題を見ても「できるはずだ」と思うようになったのである。(※2)

このあと、成績が急上昇したそうである。

(※1、2)『塾だけでは実力がつかない向山式中学生の家庭学習法』(主婦の友社)

☆向山洋一(おこうやま よういち)☆

1943年、東京生まれ。東京学芸大学卒。32年間にわたり東京都公立小学校教諭を務めた。「教育技術の法則化運動」および「TOSS」(Teachers' Organization of Skill Sharing)を主宰。「進研ゼミ小学講座」の開発責任者のほか、NHK「クイズ面白ゼミナール」教科書問題作成委員、千葉大学非常勤講師、日本教育技術学会会長、上海師範大学客員教授などを歴任。3,000冊を超える単著・共著・編著書があり、『教室ツーウェイ』『教育トークライン』など、編集長として数多くの教育雑誌の編集も手がけた。現在、TOSS最高顧問。



《シリーズ：勉強法》

☆ケアレスミスの減らし方☆

「しっかり勉強したつもりなのですが、テストではケアレスミスが結構でてしまいます。どうしたらいいですか。」

という質問をよくいただきます。今回はこれについて少し書こうと思います。

ケアレスミスの原因は、やはり勉強量と関係があると思います。自分もそうでしたが、一夜漬けに短期間で仕上げようとする、どうしてもミスがちょこちょこ出てしまいます。日数をかけて、じっくり脳にインプットしてやると、「暗記の対象物」が自分のものになり、ミスが減るようです。

例えばピアノか何かの発表会があるとしましょう。もし2、3日のうちに新曲を何曲も覚えなければならぬとすると、いくら猛練習しても本番でミスしないかとても不安ですね。

しかし、一ヶ月も前から少しずつでも練習を続けていたら、おそらく本番は前者よりはもっとゆとりを持って臨めることでしょう。日数をかけてたっぷり練習すれば、「自分のもの」になりやすいのだと思います。

また、同じ10時間勉強するのでも、続けて一気にするのと、1日1時間を10日続けるのでは、後者の方が圧倒的に定着率が良いようです。95点、100点の高得点を目指すなら、やはりこういう勉強の仕方が必要です。

地味ですが、「毎日のコツコツ勉強」がやはり大切のようです。